様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６７９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２２５１

研究課題名（和文）平家琵琶伝承のためのメソッドの開発とその検証

研究課題名（英文）The development of teaching method of the heike narrative and its verification

研究代表者
薦田　治子（Komoda, Haruko）

武蔵野音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：００３２３８５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、伝承の危機にさらされていた音楽種目「平家（平家琵琶とも）」を次世代に継承するためのメソッドの開発と検証を行った。平家は、『平家物語』を琵琶で語る音楽種目で、日本の貴重な文化遺産であるが、2015年の時点で伝承者は今井勉師（1958生、愛知県在住の盲人箏曲家）一人、伝承曲の数もわずかに8曲となっており、しかも、今井師は、平家の指導が難しい状況にあった。そこで、本研究では、演奏ＣＤおよびＤＶＤを併用して、晴眼者が平家の音楽様式を身に付け、江戸時代の伝承譜『平家正節』を読めるようになるための教材と教習メソッドを開発し、若手の演奏家を3人育てることにより、その有効性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『平家物語』が日本の貴重な文化遺産であることは言を俟たないが、この作品は文学作品であるだけでなく、琵琶を伴奏に語られる音楽作品であり、その音楽を「平家」という。平家の伝統は盲人音楽家の手によって700年以上守られてきたが、21世紀になり、伝承者の盲人は一人だけになり、伝承の危機に瀕していた。そこで、晴眼者でもこの音楽を語り、伝承をつないでいくことができるメソッドの開発が急務であった。本研究の成果は、この目的に資することができ、本メソッドで育成した3人の平家演奏家は、国内外からの公演依頼を受け、音楽賞の受賞者も出すなどの成果を上げるに至った。本研究により、平家は、廃絶の危機を免れたといってよい。

研究成果の概要（英文）：In this study, I have developed and verified a method to teach the music of the heike narrative, which was exposed to the crisis of tradition. Heike (also known as Heike Biwa) is a musical genre that narrates “The Tale of the Heike” to the biwa accompaniment and is a valuable cultural heritage of Japan handed down by blind musicians. But in 2015, there was only one player, who could play 8 pieces among 200 of the whole tale. Furthermore, he had difficulties in teaching the narrative. Therefore, in this study, I have developed the teaching materials and methods of the heike music for sighted musicians. Using the method, three young musicians learned the heike musical style and how to read the Edo period notation "Heike Mabushi". Thus, the effectivenss of the method was verified.

研究分野：音楽学

キーワード：平家　平家語り　語り物　伝承文化継承　平家正節　伝承音楽の教材

１．研究開始当初の背景

本研究は、伝承の危機にさらされている音楽種目「平家」を次世代につないでいくためのメソッドの開発と検証を目的にしている。平家（平家琵琶とも）は、『平家物語』を琵琶で語る音楽種目であって、日本音楽史上重要な位置にあるだけでなく、文学研究にとっても重要な種目であるが、2015 年時点でその伝承者は今井勉師（1958 生、愛知県在住の盲人箏曲家）一人となっており、伝承曲の数もわずかに 8 曲しかない。さらに、今井は、視覚障害と居住地のために、定期的に平家の指導をすることは難しい状況にある。

２．研究の目的

本研究は、伝承の危機にさらされている平家（『平家物語』を琵琶の伴奏で語る音楽種目）を次世代に伝承するためのメソッドの開発と検証を目的にしている。ひいては、そのことにより、700 年続いた日本の貴重な文化遺産を廃絶の危機から救うことを目的にしている。

３．研究の方法

（1）教材の作成

①現行伝承８曲について、江戸時代に作られた伝統的な楽譜『平家正節』と現行伝承の比較を行い、現行伝承に合わせて『平家正節』を改訂して教材とした。演奏と対応した楽譜を用いないと、記譜システムを理解することができず、したがって、読譜能力も身につかないからである。

②記録や記憶の補助のために五線譜による現行伝承の採譜も行った。

（2）作成教材と伝承方法の検証１―稽古を通して

①毎年 11 回の研究会を開催。若手の地歌演奏家および箏曲家 3 人に、現行伝承のＣＤ録音およびＤＶＤ録画を用いて、上記（1）の教材を併用して、平家の稽古を重ねてもらった。地歌や箏曲の演奏家に平家の伝承に取り組んでもらったのは、江戸時代を通じて、地歌と箏曲の演奏家が平家を兼修してきた歴史があり、両方のジャンルに要求される音楽性に共通するものがあると予想されたからである。予想通り、約１年半で、伝承曲 8 曲の基本的な音楽様式を身に付けることができた。これにより、現行曲についての伝承のめどが立った。

②『平家正節』の読み方を習得できれば、廃絶曲の復元も可能になるが、これには、かなりの時間がかかることもわかった。個人差もあるが、頻出する墨譜（旋律を表す記号）については、上記の教材により、ある程度読めるようになってきた。

（3）作成教材と伝承方法の検証２―伝承者今井勉師による伝承成果の検証

学習者の演奏（学習成果）を伝承者今井勉氏に聴いてもらい、教習メソッドと教材の有効性を検証することを試みたが、今井氏の都合により実現できなかった。

（4）作成教材と伝承方法の検証３―講座や演奏会などによる成果発表

研究者や一般の人々を対象に、演奏を聴いてもらうことで、教習メソッドと教材の有効性を検証した。なお演奏機会を提供していただいた機関は以下の通りである。

2016 年　浜松市楽器博物館、ICTM（国際伝統音楽学会）、上海音楽院、清栄会

2017 年　日本三曲協会、当道音楽保存会、鎌倉国宝館、文京シビックホール

2018 年　東京芸術大学邦楽科、国立劇場、楽劇学会、ジュネーヴ高等音楽院

４．研究成果

上記の検証作業により、本メソッドを用いて伝承に取組んだ演奏家たちの演奏は、研究者にも、一般にもある程度の支持が得られるようになってきた。音楽史上重要な種目である「平家」

の音楽を廃絶の危機から救うことができたと考えてよいだろう。ひいては、もっぱら文学作品として享受されてきた『平家物語』が、歴史的には音楽作品として享受されてきた事実に光を当て、『平家物語』の理解を広げることができたと言ってもよい。さまざまな機関から演奏機会が与えられたことも、その成果の裏付けと考えている。また 2017 年には、高等学校の音楽科の教科書の指導書付録ＤＶＤに本メソッドによる平家の演奏が収録された（教育芸術社『高校生の音楽１ 指導用・鑑賞用 CD』)。また本メソッドによる平家の学習に参加した菊央雄司氏が、2017 年度日本伝統文化財団賞を受賞、その受賞理由の一つに、平家が挙げられた。また研究代表者は、本研究を含む平家伝承の一連の取り組みに対して、2018 年に小泉文夫音楽賞を受賞した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　２件）

① 薦田治子、説唱音楽“平家”与仏教音楽“講式”、 Journal of the Central Conservatory of Music（中央音楽院学報）査読あり　2017 年発行、pp17-22　単著（翻訳者　栂尾亮子）

②薦田治子、近代の平家語りの享受の場と語りの変容、芸能史研究 vol.226 査読あり　2019 年発行予定　単著

〔学会発表〕（計　５件）

①薦田治子、語り物音楽「平家」と仏教音楽、第 9 回アジア太平洋仏教音楽学術シンポジウム(北京中央音楽院)、2017

②薦田治子、Transmission and transformation of the *pipa* in China, Korea and Japan、The International Council for Traditional Music、2017

③薦田治子、近世・近代の平家語りの享受の場と語りの変容、芸能史研究会大会、2018

④薦田治子、公開講演会シンポジウム「楽劇と平家」趣旨説明 、楽劇学会大会、2018

⑤薦田治子、平家の楽譜の復元と伝承について、Oulomenen I: le chant des guerriers、2018

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。